

♪ 2019年度 **poco a poco** ♪

Nr. 11 2019年9月9日(月) 文責:プファイル・辰巳

修学旅行

～お帰りなさい、中学部 2 年生!

行ってきまーす、小学部 6 年生! ～

先週は中学部のベルリン方面修学旅行でした。お

疲れさまでした。そして、今週は小学部 6 年生のミュンヘン方面修学旅行。こちらは、辰巳も引率しますので、「行ってきまーす!」です。音楽の授業が抜けてしまう学年のみなさん、戻ってきたら、学校祭目指してがんばりましょうね!



音楽こぼれ話 <大作曲家の家族たち ⑤ 子だくさんの J.S. バッハ

～ 大バッハの息子たち ～>

前回のこぼれ話で紹介した 1685 年生まれの大作曲家は 3 人いましたが、そのうちの一人、ヨハン・セバスティアン・バッハは俗に「音楽の父」「大バッハ」などと呼ばれています。バロック時代を代表するドイツの大作曲家で、バッハ一族は大勢の音楽家を生み出しました。

大バッハは最初の奥さんとの間に 7 人の子どもをもうけましたが、そのうち成人したのは 3 人、奥さんも幼い子どもたちを残して早世してしまいます。その後、大バッハは 2 番目の奥さんアンナ・マグダレーナと再婚し、さらに 13 人の子どもたちが生まれました。でも成人したのは 6 人だけでした。合わせて 9 人の子どもたちが成人したわけですが、そのうちの何人かは、当時、父に劣らず立派な音楽家として活躍しました。

まずは長男のヴィルヘルム・フリーデマン(1710-1784)。ヘンデルの生まれ故郷ハッレという町のオルガニストとして活躍しましたので、「ハッレのバッハ」と呼ばれています。

次男のカール・フィリップ・エマヌエル(1714-1788)は、息子たちの中では、もっ

とも評価が高かったようです。まずは、フルートが大好きで、自ら作曲もしたというフリードリッヒ大王の宮廷チェンバロ奏者として活躍しました。晩年は、同時代の大作曲家の一人テレマンの後任として、ハンブルグで活躍しました。有名なミヒャエル教会の中に、現在でもカール・フィリップのお墓があります。だから彼は「ハンブルグのバッハ」。

最後にヨハン・クリスティアン(1735-1782)。彼はドイツを出てイタリアやイギリスでも活躍しました。オペラなども手掛け、国際的にも高い評価を受け、ロンドンではヘンデルの後継者になりました。だから「ロンドンのバッハ」。ロンドンを訪れた少年モーツァルトとも会見しているそうです。

息子たちは作曲家としては、父大バッハには及ばずながら、カール・フィリップやヨハン・クリスティアンなどは、父の活躍したバロック時代から次の時代「古典派」への橋渡しの役目を果たし、モーツァルトやベートーヴェンへの音楽へとつなげました。演奏家としては、それぞれに、パイプオルガンやチェンバロなど鍵盤楽器を中心に相当な腕前だったようです。

ちょっとだけ 演奏会情報

アルテオーパー 10 月の演目より

10 月 11 日(金)・12 日(土) 両日とも 20 時から

モーツァルトホールにて

ヴィヴァルディの「四季」

ハンブルグ新フィルハーモニーの演奏

10 月 13 日(日) 19 時から 大ホールにて

St.ペテルブルグ・マリンスキー劇場オーケストラ

ラフマニノフ ピアノ協奏曲第 2 番

チャイコフスキー 交響曲第 5 番 ほか

10 月 25 日(金) 20 時から 大ホールにて

ピッツバーク シンフォニーオーケストラ

ラフマニノフ パガニーニの主題によるラプソディ

ショスタコーヴィチ 交響曲第 5 番 ほか

